

報道関係者 各位

2014年7月9日

重要無形文化財第5号パンソリ『水宮歌』技能保有者が公演！

研究公演「伝統芸能パンソリによる韓国文化の理解」

2014年9月15日（月・祝）開催！ 国立民族学博物館

国立民族学博物館（大阪府吹田市）では、研究公演「伝統芸能パンソリによる韓国文化の理解」を2014年9月15日（月・祝）に開催する運びとなりました。

本研究公演は、2009年に引き続き、韓国の伝統芸能パンソリの舞台公演およびワークショップを通して韓国文化の理解を図ろうとするものです。舞台公演では、パンソリの古典演目の中から『水宮歌』を取り上げます。



○公演の見どころ

■重要無形文化財第5号パンソリ『水宮歌』技能保有者が公演！

今回の公演では、様々な演奏形態を取り入れながら、重要無形文化財第5号パンソリ『水宮歌』技能保有者である南海星（ナム ヘソン）先生とその弟子たちの歌声による『水宮歌』のストーリー全体を楽しむことのできる公演を開催します。ストーリー全体を鑑賞することにより、ソリ（唄）だけでなく、物語の魅力も伝えます。

■参加者は、「本物を実際に」体験できる！

南海星先生とその弟子たちによる実演を通して、“口伝”を伝承形態の基本とするパンソリが実際どのような形で師匠から弟子に伝えられるのかをご覧ください。たんなる公演では知りえないパンソリの世界を体験してもらい、参加者に「本物を実際に」体験学習していただく機会を提供します。

【公演概要】

公演名	研究公演「伝統芸能パンソリによる韓国文化の理解」
公演日時	2014年9月15日（月・祝）13:30～16:30（13:00開場）
会場	国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園10-1）講堂
申込	要事前申込
申込方法	往復はがきに①氏名②住所③年齢（任意）④電話番号⑤参加希望人数（本人を含め2名まで）⑥「国立民族学博物館 友の会」会員番号（会員の方のみ）を明記の上、「9月15日研究公演」と書いて下記までお申し込みください。応募多数の場合は抽選となります。締切日以降、順次返信いたします。なお、参加申込された方の個人情報は、研究公演にのみ使用いたします。 宛先：〒565-8511 吹田市千里万博公園10番1号 国立民族学博物館 広報企画室企画連携係 申込締切：8月21日（木）必着
参加費	無料 ※当日は無料観覧日です。
主催	国立民族学博物館
協賛	韓国国際交流財団
後援	公益財団法人 日韓文化交流基金、駐大阪大韓民国総領事館 韓国文化院

お問い合わせ

国立民族学博物館 広報企画室 広報係

電話：06-6878-8560（直通） Fax:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp プレス向けウェブサイト <http://www.minpaku.ac.jp/press>



【プログラム】

■パンソリについての解説

■公演

(第1部)

独唱「竜王が病を嘆く」場面～「スッポンが地上に赴く」場面

二人唱「動物たちの上座争い」場面～「スッポンがウサギと出会う」場面

(第2部)

唱劇「ウサギが海に向かう」場面～「竜王がウサギに騙される」場面

独唱「ウサギが地上へ帰る」場面～大団円

■ワークショップ

口伝されるパンソリの伝承スタイルを実践披露、パンソリを実際に体験学習

【パンソリ『水宮歌』とは】

パンソリとは、一人の唱者（ソリクン）が太鼓の伴奏（コス）に合わせて歌とせりふ、身振りで物語を語っていく伝統芸能です。18世紀に各地の祭りや広場で演じられる民俗芸能としてスタートしたパンソリは、当時の支配階級であった両班（ヤンバン）が好む儒教の価値観を取り入れ、発展してきました。その物語には儒教の価値観が色濃く反映しているにもかかわらず、支配階級に対するユーモアや民衆の喜怒哀楽がいきいきと写實的に描き出されており、人類普遍的な価値観を表現する芸術として認知されています。2003年11月にはユネスコ第2次「人類口伝および無形遺産傑作」に選定されています。

現存する5つの物語の内のひとつである『水宮歌』は、スッポンとウサギを主人公とする、とても寓話性の高い演目です。子どもに親しまれている有名な昔話をベースに、民衆のユーモアがふんだんに織り込まれているのが特徴です。

【出演者・司会紹介】

■出演■ 南海星 ナム ヘソン

重要無形文化財第5号パンソリ『水宮歌』技能保有者、
金素姫先生師事（春香歌）、朴初月先生師事（水宮歌）



■出演■ 安聖民 アン ソンミン

第40回南原春香国楽大典・名唱部にて審査員特別賞受賞
※出演は上記2名ほか11名



■司会■ 朝倉敏夫（国立民族学博物館 教授）

明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程満期退学。1988年より民博。韓国社会に暮らす人びとの文化について、家族や食の視点から調査研究。近年はアメリカ合衆国、中国、ロシア・サハリンなどにおける海外コリアンの生活に関する研究に取り組む。

